

県内復興・経済日誌（2018年2月）

1日

《県産桃市場シェア、東南アジア3カ国で2年連続日本一》

県は、県産の桃の市場シェアが、タイ・マレーシア・インドネシアの東南アジア3カ国で2年連続日本一になったと発表した。東南アジアの気候は白桃の栽培に向かないため、日本の桃は人気があり、県では風評被害が少ない東南アジアを中心に県産農産物の販売促進を進めている。

2日

《双葉郡4町、東京五輪・パラリンピックメダルプロジェクトで全国初の感謝状》

2020年東京オリンピック・パラリンピック組織委員会は、不要になった携帯電話やタブレット端末などに使用されている金、銀、銅などをメダルに再利用する「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に協力した檜葉・富岡・大熊・双葉の各町に全国で初めて感謝状を贈った。原発事故で避難している町民に4町が配布したタブレット端末が更新時期を迎え、回収した端末を寄付したことが高く評価された。

《郡山市がセーフコミュニティ国際認証を県内初取得》

郡山市がセーフコミュニティ国際認証を県内で初めて取得し、認証式が同市内のホテルハマツで行われた。セーフコミュニティは、安全なまちづくりを進める都市や地域をスウェーデンにある国際NGO「セーフコミュニティ認証センター」が認証する制度で、国際基準の安全性が認められたことにより、地域イメージの向上や東京オリンピック・パラリンピック事前合宿誘致、訪日外国人誘客、企業誘致などのPR材料となることが期待される。

5日

《松川浦産青ノリ、7年ぶりに出荷再開》

震災と原発事故後に自粛されてきた松川浦（相馬市）の青ノリの収穫・出荷が7年ぶりに再開された。震災前の松川浦は全国有数の産地

として知られ、青ノリの香りの良さに定評があった。出荷再開は漁業復興の大きな弾みになると関係者は期待している。収穫作業は4月末まで続く予定である。

7日

《いわき産しめさば、全国のスーパーで販売開始》

総合スーパーのイオンリテール（千葉市）は、小名浜港で水揚げされ、市内で加工された「わら焼きしめさば」を本州と四国の全400店舗で販売開始した。いわき市内に工場があるオーシャン物産（高知県土佐市）が独自のあぶり技術を活用し、通年出荷できる新商品を開発、納入した。イオンは旬の魚を使った商品を全国販売し、風評被害が続く福島県の水産業を応援する。

13日

《Jヴィレッジ、7月28日に一部再開》

震災後休止していたサッカー施設Jヴィレッジ（檜葉・広野町）について、運営会社のJヴィレッジは、7月28日に一部施設の利用を再開すると発表した。利用できるのは、天然芝5面と人工芝1面のグラウンド計6面で、雨天練習場やフィットネスジム、アリーナ施設も再開される。宿泊施設も従来に加え新設され、最大470人が宿泊可能となる。2019年4月には全面再開が予定されており、復興のシンボルとしての期待が高まっている。

14日

《双葉町復興産業拠点への企業誘致本格化》

原発事故による全町避難が続く双葉町は、避難指示解除準備区域に整備する中野地区復興産業拠点への立地を希望する事業者の募集手続きを開始した。6月頃までに立地事業者を決め、秋以降に賃貸を順次始める。復興産業拠点にはすでに東京電力福島復興本社の立地が決まっており、合計約50haのうち約12.3haの産業用地が賃貸される。

15日

《新地町に電気供給会社が設立》

新地町がJR新地駅周辺で計画している「ま

ちづくり・エネルギー事業」で、ホテル・温浴施設や交流センターなどに電気や熱などを供給する株式会社「新地スマートエナジー」が設立された。社長に就任した加藤憲郎同町長は、「エネルギーの地産地消や災害に強いまちづくりを進め復興を加速したい」と話した。

16日

《南相馬市の特養ホームで介護ロボット実証テスト》

ソーシャルロボティクス（南相馬市）と菊池製作所（東京都）が連携して開発した介護施設用ロボットの実証実験が、南相馬市の特別養護老人ホーム「福寿園」で行われた。3種類の介護ロボットが来訪者の受付や案内などを行い、介護職員の負担軽減効果が示された。今後、浜通りに生産拠点を設け、年間100台程度の移動ロボット生産を目指している。

《会津若松市、観光大使に大林素子さんを任命》

会津若松市と会津若松観光ビューローは、女子バレーボール元日本代表の大林素子さんに「会津若松市観光大使」を委嘱した。新選組の土方歳三ファンである大林さんは、会津の歴史に興味があり、昨年は年間50日近く会津に滞在するほどの会津びいきで、2007年には福島をPRする県しゃくなげ大使にも任命されている。同市は戊辰戦争150周年に結びつけた観光PRに力を入れており、室井照平市長は「会津へ人一倍思い入れがある大林さんは強い味方」と期待している。

17日

《初代日本酒王子に二本松市の保育士が選出》

二本松商工会議所が開いた「二本松酒まつり」で、二本松物産協会が「日本酒をこよなく愛する独身男性」を条件に全国から募った初代「日本酒王子」に、同市内の保育士、平地武尊さんを選出したと発表した。日本酒王子は女性の市場開拓を使命に、地酒PR役として観光イベントなどに協力する。

18日

《浪江町で7年ぶりの安波祭が開催》

震災の津波で社殿が流され、宮司らが犠牲になった浪江町の^{くまの}若野神社で、豊漁と海の安全を祈る「安波祭」が^{あんばまつり}開かれ、7年ぶりに伝統の田植踊などが神前に奉納された。現在、神社は仮

の社が置かれているが、今後の社殿再建や故郷の再生に向けた第一歩となった。

20日

《福島大学教授らがワシントンのシンポジウムで県産農産物の安全性説明》

原発事故の風評を払拭しようと、福島大学と東京大学の研究者らが、米国首都ワシントンでシンポジウムを開いた。福島大学の小山良太教授は、放射性物質の検査データや検査態勢を示しながら県産農産物は安全だと訴え、正しい理解を求めた。

24日

《川俣町山木屋で4月開校の小中一貫校、見学会開催》

川俣町山木屋で4月に開校する小中一貫校の見学会が現地で開かれた。新設された開閉式屋根のプールや電子黒板を設けた教室などを見学した児童、生徒らは、充実した学校生活を思い描いた。4月から小中学生合わせて15人が通学する予定である。

26日

《富岡町「麓山の火祭り」復活にむけ、麓山神社社務所が上棟げ》

伝統行事「麓山の火祭り」が今年の夏に8年ぶりに復活する富岡町の麓山神社で、社務所の上棟式が行われた。上棟式には多くの氏子や地域住民が県内外から集まり、神事が行われた後には餅まきなどで盛り上がった。震災で損壊した社務所は昨年末から再建工事が進められ、5月末に完成を予定している。町のシンボルでもある麓山の火祭りの復活にあわせて、町の復興や住民帰還につながってほしいとの期待が高まった。

28日

《2017年産の米食味ランキングで、県産米4銘柄が「特A」に》

一般社団法人「日本穀物検定協会」は、2017年産米の「食味ランキング」を発表し、県内産では、会津産と浜通り産のコシヒカリ、中通り産と会津産ひとめぼれの4銘柄が5段階評価で最高の「特A」となった。中通り産コシヒカリと県オリジナル品種「天のつぶ」はともに特Aに次ぐ評価の「A」を獲得した。